属人区長の説教: 「神の母、我らの希 望 |

「神の母、我らの希望」

オーディオ (スペイン語、11分)

日本語の訳:

この5月、世界はまだ感染症による 緊急事態という厳しい状況にありま す。それは多くの悲惨な結果を見せ つけています。私たちの思いと祈り は、特に憐れみの母であり病人の回 復である聖母に向けられています。

何よりもマリアは神の母です。このように教会は信じています。5世紀のエフェソス公会議で厳粛で深遠で、同時にシンプルな言葉でこう表現されました:「聖なる処女は神の母です。なぜなら、彼女は人となった神のみ言葉を母として生んだからです」。

主は、その救いの計画の中で、聖ルカの福音書(ルカ1:26-27)にあるように、主は救いの計画の中で、「マ

リアという名の、ダビデの家のヨセフという男と婚約した処女」の助けを借りようと望んでおられました。そして、彼女は天使の告げに応えて、「み言葉どおり、私になりますように」(ルカ1:38)と言った。そして、御言葉は肉となりました。

マリアが神の母であるという特権の中に、マリアのすべての資質、特に天使の挨拶にあるように、「恵みに満ちた」(ルカ1:28)、すなわち神の恵みによって完全に聖化されたという資質が根付いています。

マリアがもった恵みの充満は、信仰と希望と愛の充満となりました。この充満の状態は、ベツレヘムからカルワリオに至るまでの聖母の生涯の中に苦しみが存在することを妨げるものではありませんでした。「確かに神は御母を称賛されましたが、地上における御生活中に信仰の明暗や仕事の披露、苦痛から聖母を免除さ

れなかったのも確かです」と聖ホセ マリアは説明しています(『知識の 香り』172)。なるほど信仰は光で すが、暗さも含みます。なぜなら、 見えないものを信じるからです。私 たちは常に神の計画を理解すること はできるわけではありません。それ はちょうど、神殿でイエスを見つけ た後、御子の応答を聞いたマリアと ヨセフが「彼らに言ったことがわか らなかった | (ルカ2:50) のと同じ です。どうか聖母が私たちに信仰を 増すよう取り次いでくださいますよ うに。そうして、信仰がやみに包ま れるときでも、私たちを神への確か な信頼へと導き、私たちに対する神 の愛をしっかりと信じることができ ますように。

今日は特に希望をテーマにしていきたいと思います。教皇フランシスコは、「マリアは、すべてのものが無意味に見えるときでさえ(...)、神が世界の悪によって姿を消されたよ

うに見えるときも、希望の徳を教えてくれます」と書いています。彼女は私たちの歩みを支え、「起き上がれ、前を見よ、地の果てを見なさい、と言われます。彼女は希望の母だから」(フランシスコ、一般謁見2017年5月10日)。

聖ベルナルドの祈り「メモラーレ」 で、私たちは、聖母が助けを求める 者を見捨てないと言います。「慈悲 深き童貞マリア、御保護によりすが りて御助けを求め、あえて御取り次 ぎを願える者、一人として捨てられ しこと、いにしえより今に至るま で、世に聞こえざるを思い給え| と。私たちは信仰をもって、この祈 りを何度も唱えることができます。 それは多くの家庭の経済的困難、職 場の不安、社会の緊張などをも引き 起こしている感染病の流行の中で希 望を与えてくださいと願うためで す。

たとえ人間的には不安が巨大であっても、神の愛に信頼して、超自然的な希望を持って未来に立ち向かうことができるよう、そして愛情と平安を他の人に伝えることができるように、聖母にお願いしましょう。私たちが、人生とは互いに支え合う道であるとの見方ができますように。

逆境の時期は、内面の成長、個人 的・社会的な改善に好ましい機会と なることがあります。つまり、自分 の殻を打ち破り、他者に自分を開く 機会です。しかし、このような時に 疑問や不安、苦悩が生まれるのも事 実です。

信仰の光によって、苦しみは意味を 得て、より耐えられるようになり、 時には明晰さと平安と内なる喜びを 見つけることができる場所になるこ とさえあります。私たちは誰にも苦 しんでほしくないと思うと同時に、 苦しみも人間の存在の一部であるこ とを知っているからこそ、他の人と 一緒に苦しみを背負い、愛をもって 苦しみに身を任せることを学びま す。ベネディクト16世が『希望に よる救い』の中で言っているよう に、「私たちは苦しみを避け、苦し みから逃れることによっていやされ るのではありません。むしろ私たち がいやされるのは、苦しみを受け入 れ、苦しみを诵して成長し、キリス トと一致することに意味を見出すこ とによってです。キリストは限りな

い愛をもって栗しまれたからです」 (ベネディクト16世が『希望によ る救い』37)。

希望の母である聖母マリアに、私たちは特別な方法で教会の現在と確かの現在と確かのとき、彼女の御子へつまげ、聖霊降臨のときが逃げれる。 信頼が、聖霊降臨のときが逃げれる。 信頼が、聖霊降臨のときが逃げれる。 は多くエスを否定し、他恐れる し、一人がイエスを否定しが恐いない。 子たちが疑い、生まれたばかりの 振るえていた、生まれたばかりで 振るえていました(使徒言 行録1:14参照)。彼女は希望を植え 付けたのです。

私たちは、聖ホセマリアが極めて初期の時代から人々に勧めていたあの霊的な道のりを新たにしましょう:Omnes cum Petro ad lesum per Mariam、「みながペテロと共にマリアを通してイエスへ」。教会は神の贈り物ですが、この教会に対する私たちの若々しい信仰は、なにより

も教会のために、教皇のために、そ して福音のために迫害に苦しむすべ ての人々のための祈りに現れます。 これらの意向をかなえてくださるよ う、教会の母である聖マリアにお願 いします。

教皇が今年5月にロザリオに追加することを提案した祈りの最後のフレーズで、私たちは聖母にこう言います:「救いと希望のしるしとささわたしたちの道を照らしてくださるおなたに、この身をゆだねます。喜びおいつくしみ、恵みあふれる喜びのおとめマリア。アーメン」(フシスコ、2020年5月にあたってすべての信者に送る手紙)

私たちは、福音書の場面を観想しながら、マリアの「あなたのみ言葉のようになりますように」の後のマリア様に目を戻しましょう。母親にとって、生まれてくる子どもを待つ時間は、希望の時間です。マリア様

の場合、ご自分の胎内に宿った方が 世界の贖い主であることを知ったので、その希望は全人類の救いう考えにまで広がったでもいったでもまで広がったとき、の母が未来を想像されたとき、の中で、私たち一人がそのりヶ月間、るいたのでするられた時かられた時からは全人類の重み、の重さを感じられたことでしょう。

ネを指して、そして聖ヨハネを通じて、そして聖ヨハネを婦人 て私たち一人を指して「婦人ョ よ、これがあなたの子です」(のは、 ネ19:26)という言葉を聞いたのは、 十字架のすぐ側で、でした。私でもなりで、 は、マリアが「私たちの母」といることを知ることで、 アと接し、聖母の取り次もあるマ望 に満ちた確信を持つことが出来る満りまたなります。 私たちは喜びな卑いた。 た希望をもって、「個人的な卑小

マリアが十字架上の御子が、聖ヨハ

さ、弱さ、過ちのために、私たちが 必要とするすべての力を、聖母への 子としての信心を通して、たゆまず 神のうちに求めに行きます」(聖ホ セマリア、1954年5月31日の手紙、 36番)という聖ホセマリアの言葉で もって断言することができます。

この「聖母への子としての信心を通 して神を求め続ける」というのは、 聖ホセマリア自身の人生の際だった 特徴でした。まさにこの月、私たち は聖ホセマリアのメキシコのグアダ ルーペ巡礼から50周年を迎えます。 その巡礼の中で、パドレは9日間全 世界と教会のために祈られました。 マリア様のご絵を見ながらこう言っ ていました。「私はメキシコに来な ければなりませんでした。私たちは あなたとあなたがくださったすべて のもののために強い自信に溢れてい ますと言うためです。 (・・・) 私 たちは、あなたの御子に使えるこ と、そしてあなたの助けを得て、御 子のために、すべての人々に使える 以外の望みを持ちません」と。

また、この5月は聖ヨハネ・パウロ2世の生誕100周年の節目でもあります。「私はどれほど多くの恵みを聖母から受けてきたことでしょう」と、『おとめマリアのロザリオ』に書いています。

神の母であり、私たちの母であるマリアが、御子イエスに取り次いで私たちのために信仰と希望を増してくださり、神と他者に対する私たちの愛を強めることができますように。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/audio-sekkyo-zokujinkocho-kamino-haha/(2025/12/11)